



東京大学  
理科一類  
現役合格

## 三上 聖人

クラス授業受講科目：英語・数学・現代文・古典  
55段階受講科目：英語・数学・現代文・古文

### 「意外なところに穴がある」 四谷学院ならそれが見つかると思った。

栗山：三上君が四谷学院に通い始めたのは高2の秋からだよね。何かきっかけがあったのかな？

三上：以前見たことがあった四谷学院のテレビCMで、「意外なところに穴があった」というフレーズがあったと思うんです。そのころの僕は、学校の成績は全然問題なかったんですけど、模試の点数がずるずる下がっている状態で。例えば「問題を解く」となったときに、学校から

配られた問題集とかは、普通に解けるんですよ。じゃあ、受験を意識したときに「結局何をしなければいけないんだろう」と考えて、「意外なところに穴があった」、もしかしてそれなんじゃないのかなって思ったのがきっかけですね。

栗山：学校の成績は問題なくて、でも受験という面でいくと、ちょっとなんとかしなくちゃいけないんじゃないかと。四谷学院以外の予備校とは思わなかったの？

三上：55段階個別指導ってあるじゃないですか。自分のペースで進めることができるのが

いいな、やりやすそうだなって思って。本当は最初からクラス授業もとりたいんですけど、吹奏楽部で部活が週7だったんで、英数国の55段階から。

### できていると思っていても 洗練するところはある。 55段階で受験への対応力が付いた。

栗山：スタートしてみた感じはどうでしたか。

三上：始めてすぐは、中学の復習とか英文法の基礎とか、1回の授業の中で6級分くらい進めたりしたんですけど、例えば数学であれば「ここはこういう風に書いた方がいいよね」とか「この方法よりもこの方法の方が楽だね」とか指摘されて、まさに意外なところというのか、簡単だとあなどっていた問題でも、もっと洗練するところはあるんだなと気づかされました。

国語に関しては、学校の成績は良かったですけど、学校の定期テストってどうしても授業の内容を覚えてるか覚えてないかってことになっちゃうんで。

栗山：授業で1回やったやつだもんね。

三上：はい。僕は初見の文章に対応するのが厳しかった。後々思ったことなんですけど、難しい文章を読んで「よくわからないな」って思ったときに、「これが主語でこれが述語で」という風に文の構造をとることが大事なんですよね。英語という構文把握です。その英語構文の考え方を現代文に応用して、一から身につけられたのが、55段階で得られた大きいポイントだと思います。

### 「基礎」とは解法の根っこの部分。 基礎を磨くことで あらゆる問題に対応できる。

栗山：なるほど。それで、高3になってから東

大選抜クラスの授業を受けたわけですが、授業の印象はどうでしたか？

三上：「東大選抜クラス」という名前なので、始まる前はめっちゃくちゃ特別なことを最初からばんばんやるのかな、という印象があったんですけど、そうじゃなくて、基本的なところ、そもそもこれまでに学習してきたことの意味から洗い直す感じでした。

数学ですごく印象的だったのが、図形問題に対する向き合い方の話。ベクトルと、幾何的処理と、解析的処理の3種類があって、それぞれに得意な分野があって、みたいな話を聞いたときに「こういうことって今まで知らなかったな」って思いました。問題集って問題がベクトルならベクトル、図形と方程式なら図形と方程式と分野別になっているから、「図形問題」という捉え方がわからない。図形の問題に対して何を使うべきかってなったときに、例えば直交条件を積極的に使う問題だったらベクトルを使った方が楽だなとか、図形的性質が見えるんだったら幾何的に処理した方が楽だなとか、そういう視点をそれまで持ったことがなかったんです。入試問題ではジャンルにとらわれない出題のされ方をするので、これまでに見たことのない新しい問題に対して、「これはこういう問題だからこの解法でいくのがいいんじゃない



か」って、自分で解法の筋道の根本の部分を立てることができるというのはすごい…そういうことができるようになる授業なんだなって。

英語も、難しい構文をやらなかつたわけじゃないですけど、「主語をとってこの部分がここを修飾して…」という地道な構文把握、基本的なところをひたすら固めていく感じでした。長文読解でわからない単語が出てくることはどうしてもありますが、英文の構造が把握できていれば、少なくともそのわからない単語の品詞が何かは確実にわかりますよね。それが例えば動詞だったら、これが主語でこれが目的語でこういう文脈だから、およそこういう意味なんじゃないかという風に捕まえられる。知識の量を競うのではなくて、しっかりした基礎力があるからどんな問題に対しても対応できるようになる。そういう授業だったと思います。

栗山：基礎が大事、というのは誰もそう思っていると思うんだけど、「基礎ができているというのはどういう状態か」というのが問題なんだよね。さっき数学で図形問題に対するアプローチという話があって、もちろんベクトルの基本的な使い方や平面幾何の基本的な法則を知っていなければいけないんだけど、そうした知識があるということと、基礎ができているということは違うわけです。ある問題が与えられたときに、その問題に対する適切なアプローチとしてベクトルが思い浮かぶ、というのが、ベクトルの基礎が習得できているということなんだよね。入試問題集の模範解答を見て、その解答の筋道が理解できたとしても、「なぜこの解答はベクトルを使って解いているんだろう」と考えること、実はそこが一番大事なところなんだよね。

三上：はい。本当にそうです。例えば内積について、「2つのベクトルの大きさとcosをかけるんだ」ってことでなくて、内積によって何

ができるのか、そういうのが大事なんだなってすごく伝わってきました。



### テクニックや公式を無駄に使わない 本質を学ぶ授業が入試本番で活きた。

栗山：以前は苦手だったという国語のクラス授業はどうでしたか。

三上：対話形式の授業で、自分が理解できるまでとことん付き合ってくださいって、国語に関しては本当にこのクラスのおかげで感じます。現代文って、「この接続詞があるから次が…」みたいなテクニックがあるじゃないですか。そういうことも文の構造をつかむ上では大切だと思うんですけど、「文章の意味を理解する」という一番大事なところが抜けちゃうと意味がないと思います。四谷学院で受けた現代文の授業は、「その文章に書いてあることを理解する」ということに重点を置いていたので、特に東大の記述答案を作るとなったときにその力が活きたと思います。

古典に関しては、四谷の授業を受ける前は文法に関する知識が頭に入っていなかったんです。授業の初回に「古文ちょっと苦手なんです」ということを聞いていただいて、基本的な文法を確認しつつ同時並行で問題も解いて、という感じでした。スタート時点ではほとんどできてい

なかった古典が、本番ではかなり確信を持って解けたので、本当に基本的に忠実っていうのが大事だったんだなと思います。

栗山：理科は通年授業では選択してなくて、講習に参加したんですね。

三上：物理は夏の講習で衝撃を受けて。今僕が物理に興味を持っているのはそのときの影響が大きいんです。基本的な関係式、基本的な原則に基づいて、そこから理論を展開していく美しさがすごく伝わってきて。実際にそれで問題が解ける、となったときに「物理ってこういうものなんだ」ということを初めて知った感じでした。

栗山：物理って「いろんな公式を覚えて、どれを使おう」じゃなくて、根っこから順に公式が派生している、その根っこをつかむことが一番大事なんですよね。

三上：夏の段階ではあまり電磁気をやっていたんですけど、今まで触れたことのない分野でも結局その基本のものがあって、そこから考えればいいんだってわかりました。特に物理は、基本的なところをしっかりと処理できるようになることに尽きるんだなってすごく思いましたね。

栗山：電磁気が苦手な人、例えばコンデンサーが苦手な人って、コンデンサーが並んでいるときに「これは直列か並列か」みたいな考え方をするんですね。そうじゃないんです。回路があって、各点の電位によって、コンデンサーの極板電荷が決まる。それが時と場合によっては公式を使うと速いよというだけで、あの直列とか並列とかの公式は別に覚えなくていいですよ。公式が先にあるんじゃないって、電圧とはどういう概念で、電気量保存とはどういうときに使われるものかわかれば、それでコンデンサーはおしまいなんです、基本的には。

三上：実際講習でも「ちなみにこういう公式も

あるよ」ぐらいでした。

### 東大合格のポイントは、 「必要な努力」を積み重ねること。

栗山：受験を振り返って、東大合格のポイントって何だと思います？

三上：「特別な事は何もなし」というか、東大だからということではなくて、最低限やらなきゃいけないことをしっかり積み重ねていくっていうことかなと思います。

栗山：そうですね。「最低限やらなきゃいけないこと」とは何かをしっかりと押さえて勉強する。テクニックは、「その問題に対してこのテクニックが使える」という単なる1対1の関係だけであれば、それはすごくおもしろくないテクニックなのであって、ちゃんと習得する価値があるテクニックなのかということから押さえて勉強しないとね。

三上：「努力すれば必ず叶う」って言葉があるじゃないですか。僕それは好きじゃないですよ。「やったからにはご褒美くるよね」みたいな精神を感じ取ってしまって。何を努力するかが大事であって、「必要な努力」をしっかりと見極めて、それをコンスタントに実行していくということが一番大事だと思います。

栗山：ありがとうございました。

